



日本語教員養成課程

○沿革と概要

甲南大学日本語教員養成課程は1990年度に開設され、2025年度から登録日本語教員養成機関・登録実践研修機関となりました。甲南大学の全学部に開かれている課程で、授業は文学部日本語日本文学科が開講しています。本課程は、建学の理念に沿って良質な社会的常識・倫理観・品格を備え、日本語を第一言語としない人の日本語学習を支援し、自ら率先して社会に貢献できる専門性を持った日本語教員を養成することを目標としています。

○受講資格・定員

上記のとおり、甲南大学日本語教員養成課程は本学の全学部生が受講できる課程です。ただし、文学部生は1年次から履修できますが、他学部生は2年次以降からの履修になります。教壇実習は定員を20名とし、履修希望者が定員を上回る場合は選考を実施します。

○課程修了要件

日本語教員養成課程を修了するには、決められた科目を履修し、合計28単位以上を取得する必要があります。必修科目は、日本語教育の基本を学ぶ「日本語教育概論Ⅰ・Ⅱ」、日本語のしくみを理解する「日本語学概論Ⅰ・Ⅱ」、社会の中でことばがどのように使われるかを学ぶ「社会言語学Ⅱ」、教材分析や学習活動案作成を行う「日本語教授法研究Ⅰ・Ⅱ」などの13科目に加え、模擬授業や教壇実習を通

して実際に教える力を身につける「日本語教授法実習Ⅰ」を含めた計14科目です。これらを学ぶことで、日本語教師に必要な知識・技能・態度をしっかりと身につくことができます。

○課程授業の一例

授業の一例として「日本語教育概論Ⅰ」の内容を紹介します。この科目で扱うテーマは、異文化間コミュニケーション、言語政策、やさしい日本語、日本語教育の歴史と現状、外国にルーツをもつ子どもたちへの日本語教育、日本語教育に関する制度や資格です。講義に加え、調査やグループワーク、国内外の専門家・当事者とのディスカッションや協働学習を通して、主観的に学び、理解を深めます。



ゲスト参加型授業の様子

○教壇実習

甲南大学日本語教員養成課程は、教壇実習が必修となっています。教壇実習は2種類あり、国内（甲南大学内）と海外（台湾・東海大学）のどちらか一つを選んで履修します。両方履修することもできますが、同時期に二つの実習科目を履修することはできません。

国内実習は、甲南大学の留学生向け日本語授業で教壇実習を実施します。学内という安心できる環境で、初めての授業に挑戦し、指導力を磨くことができます。

海外実習は、台湾台中市にある東海大学で

日本語授業を行います。現地の方々との交流の機会も多くあり、異文化環境での指導力を養成します。



実習生による日本語授業風景

○学習支援体制

甲南大学には、大学近隣の在留外国人や留学生の日本語学習を支援する正課外活動「あおぞら」があります。また、学内の留学生対象授業で会話練習や発表準備をサポートする「まなとも」という学生ボランティア活動もあります。日本語教員養成課程は、こうした国際交流活動と連携し、ピアサポートを通じて、多様な学生が学び合える環境を整えています。さらに、資格試験対策や履修に関する相談など、学びを支える仕組みも充実しています。模擬授業や事前指導を通じて実践力を養い、ICTを活用した日本語指導法や学習活動も学べます。



「あおぞら」の日本語学習支援活動風景

○課程修了と進路

課程を修了した学生には、日本語と英語で記載された「修了証書」が交付されます。この証書は、学びの成果と専門的スキルを公式に証明するもので、国内外での日本語教育活動やキャリア形成に活用できます。

これまでの修了生は、青年海外協力隊員としてヨルダンや内モンゴルなど海外に派遣されたり、海外・国内の日本語学校で教えたりと、幅広い分野で活躍しています。さらに、日本国内の小学校・中学校・高等学校でも、本課程で身につけた専門性を生かして教育現場に貢献しています。

○甲南大学の養成課程について知るには

詳しくは、甲南大学日本語教員養成課程の公式サイトをぜひご覧ください。

<https://www.konan-u.ac.jp/faculty/letters/japanese/youseikatei/>



問い合わせ先

甲南大学教務部

kyohmu@adm.konan-u.ac.jp